

麦の穂

題字

NPO 法人 麦の会 

〒983-0234 仙台市宮城野区松岡町17-1 TEL・FAX(022)

E-mail: muginokai@k5.dion.ne.jp

http://www.web-i.ne.jp/aaa0098

299-1279

多くの皆さん、ご支援ありがとうございます。

この原稿を4月29日に書いています。楽天も・ベガルタも勝ちました。嶋選手のあいさつには感心します。

本当は3月に麦の穂を発行する予定でした。しかしもちろん3月はそんな状況ではありませんでした。

地震から一月以上が過ぎました。沿岸部ではまだまだひどい状態が続いていますが、仙台市内は落ち着きを取り戻しているようにみえます。

この間、電話やメールなどで、多くの人から、ご連絡をいただきました。カンパもいただいています。本当にありがとうございます。その一つ一つに励まされています。

阪神淡路大震災の時、とんでもないことが起きたと思いました

宮城県沖地震も30年以内に起こると言われていましたが、まさかこんなとんでもないことが起きるとは夢にも思いませんでした。

その時、コッペでは、クッキーの袋詰めを行っていました。

突然の大きな揺れ。いったん収まるかと思われましたが再び大きな揺れ。中々収まらず、本当に長かったんです。机にしがみつくもの、互いに支えあうもの、みんなその場から動けません。いろいろなものが落ちて、棚そのものも倒れました。でも、建物は耐えてくれました。長く長く感じられた時間が過ぎ、やっと揺れが収まり、みんなの無事を確かめました。でも、一面が散乱している。もう、仕事どころではありません。と、一人よっちゃんだけは仕事をしています。自分の決められたことは最後までやらないと済まない性格なのです。感心するやら、あきれんやら。倒れた棚のすぐ隣にいたさっちゃんは、ニコニコ顔で「たおれたよ」と一言。全くと思いながら、そんな姿にみんなの雰囲気はちょっと和んだのでした。

電気がとまり、ガスも水も、とまってしまいました。当然、電話を通じません。外を見てみると、建物の一部タイルがはがれていたり、エアコンの室外機が倒れていたりしました。でも、大きな揺れの割には、周りには倒壊したような建物はないうでした。

しばらくすると、雪は降ってくるし、サイレンも方々から聞こえてくるし、道路も徐々に渋滞し始めました。

なんとか家が近い人から送って行ったり、迎えが来たり、遠い人とはとにかくあわてて動いても仕方がないので、判断付くまで待つてもらうしかありませんでした。

合間を見て、小学生と中学生の子どもを迎えに、自転車で学校へ。体育館にいました。そのまま自宅へ。自宅は倒れずありました。でも、中は、ご想像通り。あっ、テレビ生き残ってる！ダンス倒れてる！でも、コッペに戻らなくては行けないので、お隣に子どもを頼んで、とんぼ返り。途中、車は渋滞、歩道には歩行者があふれていました。

帰宅できる人は何とか8時ごろには帰りました。帰りの夜道は、本当に真っ暗で怖いぐらいでしたが、星はきれいでした。

ただ、自宅が損傷したスタッフ2名は、この日から1週間ほどコッペで避難生活を送りました（一人は引っ越し、もう一人も引っ越さなければなりません）。また、実家が津波で被災された人、原発で避難を余儀なくされた人もいます。誰もがなんらかの形で影響を受けています。

当時、唯一の情報手段となった携帯ラジオからは、「マグニチュード9！」「沿岸部で壊滅的被害」「荒浜地区で数百人に遺体が」との報道が。電気が復旧しテレビで津波の映像を見るまでは、何が起きているかは、まったく想像できませんでした。

震災直後、大きなスーパーやコンビニなどは大変な人でした。でも、自転車で移動していると、街の小さな八百屋さんや魚屋さんで結構食材を買うことができました。小さな商店街ぐるみで頑張っているところもありました。威勢のいいお店の人の声を聞くと嬉しくなりました。大変なのだけれど、大切なことを思い出させてくれる気もしました。

震災直後は、正直今後も商売ができるのかと思いました。袋詰めが中途半端に終わったクッキーは避難所にもっていきました。在庫のクッキーは店頭で売りました。電気・水が来てからは、残っていた材料でパンを作りました。原材料の在庫も不十分で一日の生産量は多くはできませんでしたが、コッペ始まって以来の行列ができました。しかし3月中は、これまでの取引先はほとんどが再開せず、店頭販売だけが頼りでした。公共交通機関の回復もまだ不十分で、障害メンバーは自宅待機にしました。

4月に入り、取引先も再開するところが増えました。地下鉄がやっと全線開業し、交通の面では正常に近くなりました。みんな元気に通ってきています。また、各地で「復興市」を企画して頂き、県外からの注文も入るようになりました。コッペ以外の事業所の製品も仕入れて各地へ送っています。ありがたいことです。

しかし何より不安なのは、原発です。もう、福島・東北だけの問題ではありません。一刻も早い事態の収束を望みます。宮城にも女川原発があります。なくさなければいけません。再稼働を止めたいです。

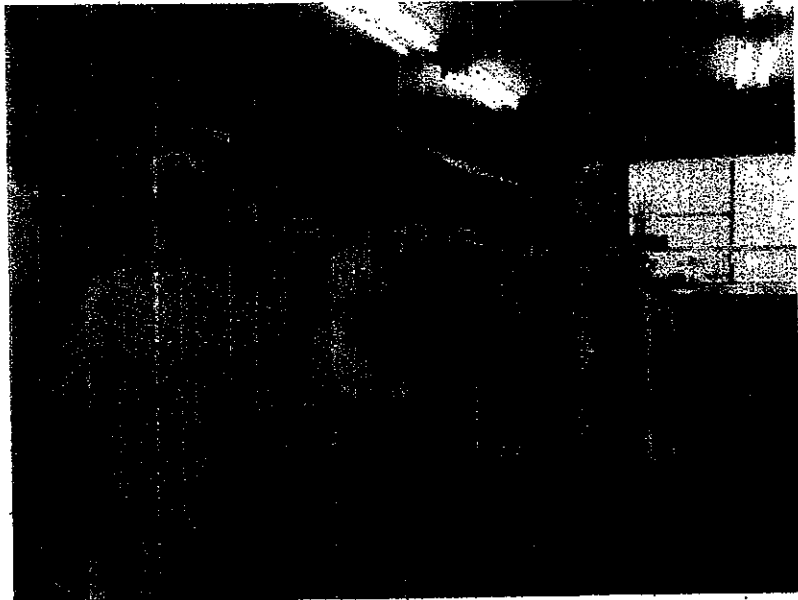
今、本当に多くの団体の方が支援に来ています。多くの人に出会います。コッペを立ちあげたころ、大阪に見学に行ってお世話になったKさんにも何十年ぶりにお会いすることができました。本当にうれしいかぎりです。

障害者にも必要な支援を行っていこうと地元のCILなどを中心に動き始め、ゆめ風基金の方も応援にかけつけて、被災地障害者センターみやぎを立ち上げています。福島・岩手にもセンターが立ち上がっています。

手さぐり状態の中ですが、再生への道は間違いなく始まっています。

長い道のりになると思いますが、これからもよろしくお願いします。

特定非営利活動法人 表の会 コッペ
代表 飯嶋 茂



一緒に仕事ができるのが何よりうれしい！～コッペ一同～

東日本大震災で思ったこと

明石 澄子

3月11日の地震の日、その時私は、ちょうど配達の仕事で真中央にいました。時間があつたので、お茶でも飲んで帰ろうかと思つて少し歩いた時、地面がゆれたので、また目まいがしたのかと思つたら、まわりの人達がにげたり立ち止つたりしてたので、私は、地震が来たと思ひ、すぐに止るたろうと思つたら、ものすごくゆれて、とてもこわかつたです。でも、私は教会に行つて、神様を信じていたし、入院している時にもらつた赤バッチをつけてたので、すぐに、禮物のかがびしさがみつきました。少したつて、ゆれがおさまつたので、下におりて家に電話をしようとしても、つながらなかつたので、バスにのつてり帰ろうとした時、一度あきのり君を家まで送つて行つたゆかりさんが、私のことが心配になつて、わざわざもどつてきて、家まで送つてくれて、メモをかいてくれたので、母と会うことができました。そして、その夜は、車組とプロハブの小屋に寝る組とに分かれて、私と父と母の3人と、2人の甥達が、プロハブの小屋に寝て、のこりの家族は、それぞれ車の中で寝ました。二日目は、水が出なかつたので、水をもろいに行つたり、家の手伝いをしたり、買い物に行つたりしました。三日目

は、いろんな所から救援物資がてどいたことと、電気やガスがついて、とてもうれしかつたです。

いつまでも

あれからコッペは皆と一糸者に
楽しく元気張れるようにしたいと強く
思っています。仲良くしていつまでも
コッペ事大事にしましょうね「明るいの」
という仲間がいるから安心して
あれからもコッペの仲間が一番として
か合わせで進んでパン、スッキーの
コッペ店になるんだよ道は一つの
仲間ですやましよう


いつまでも、あれから仲間をいよう

(いつまでも)
ありがとう

阿部 央希

♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡
♪ わくわく音楽会の事 ♪

    斎藤七恵♡

私はわくわく音楽会の司会
をやりました。最初は、少し
緊張しましたが堂々とでき
ました。いい経験ができて
とても楽しかったです。♡ ☆
バウライカの演奏は、素晴
らしかったです。♡ ☆
来年も楽しみにしています。 

< 2月25日に行われた「わくわく音楽会」の
レポートです。 ♪ >

みやぎ社会貢献大賞をいただきました

みやぎ社会貢献大賞は、財団法人愛知揆一福祉振興会（以下、振興会）が主催しています。振興会は1981年の創立から社会福祉団体が行う事業に資金助成をしてきました。2007年からは、多様化する市民活動の意義を考え、より社会全体に視野を広げた活動になることを期待して「みやぎ社会貢献大賞」を創設しています。

みやぎ社会貢献大賞は、一次審査の書類選考を通れば、3万円。一次審査を通った5団体による公開プレゼンテーションでトップになると賞金100万円が授与されます。

コッペは昨年に引き続き2回目の挑戦で、見事「みやぎ社会貢献大賞」に選ばれ、賞金100万円を獲得しました。そして、1月18日にはコッペに「出前授賞式に来ていただきました。

公開プレゼンテーションでは、障害メンバーのAさんも登場。代表の「コッペは20年以上続けてきて、機械類も故障し、お金がなくて大変なんです〜。」という訴えの後に、「100万円、ゲットだぜ」と力強くアピールしたのです。

このみやぎ社会貢献大賞は、多くの団体に開かれています。プレゼンテーションには、障害団体だけではなく、子育て支援・ホームレス支援を行っている団体も参加していました。いずれの団体のプレゼンテーションも例えば、新規事業の立ち上げなどといった内容などもあり、聞いていてすばらしいものでした。

麦の会の活動の中心はコッペの運営であり、それを長年続けてきていることに大きな意味があるのですが、新規事業の立ち上げといったことに比べると、こうしたプレゼンテーションではどうしても「地味」にうつります。

その中で、麦の会の活動を評価していただいたことは大変嬉しいことでした。去年は一次審査は通ったのですが、2次審査で敗退しました。今年の応募はどうしようかと迷ったのですが、再挑戦のまいがありました。

また、振興会のホームページには、公開プレゼンテーションや表彰式の様子・講評などもアップされています。どうぞ、ご覧になってみて下さい。

（飯嶋）



地震の事、忘れたいけど書きます

(不謹慎な発言もあると思います。先に謝っておきます。)

後藤 ゆかり

私はパンの配達中に被災した。あっ君、すみちゃんを乗せ、泉中央のお店にいつも通り食パンを届けた。残り4件宅配がある。その日は隣のお店でお団子を三本買い、外に車を停め食べる。すみちゃんといつもと同じように泉中央駅で別れる。「また来週。気をつけて帰ってね。」この後起こる事も知らずに…百メートル位走ると急にハンドルがとられた。地震だ。かなりデカイ。泉区役所横の路肩に停める。前後の車がぶつかるかと思うほどの揺れだ。すみちゃんの所へ直ぐにでも戻りたい。彼女は心臓が弱いのだ。思わずすみちゃんの名を大声で叫ぶ。ダメだ。落ち着け。大丈夫。必ず会える。自分に言い聞かせる。後ろに座るあっ君に「すぐおさまるから。大丈夫だよ。」と声をかけるが、なかなかおさまらない。

側の街灯が大きく揺れている。折れたら終わりだ。電線が長縄のように、ぐるぐる回る。通行人はみな座りこんでいる。揺れはなかなかおさまらない。振り返りあっ君を見るとしっかり座席をつかんでいる。えらいぞ。あっ君。最近なつたぎっくり腰は、今はきっと痛まないだろう。…コッペのみんなは大丈夫だろうか。飯嶋氏がいる日で良かった。もう一台配達に出ている三人は無事だろうか。この時間ならコッペの近くか…いない人を心配してもしかたない。今は自分のやれる事を考えよう。飯嶋氏ならどう行動するか…。心が裂けそうになるのを必死に抑える。すみちゃんの所に飛んで行きたい。揺れが徐々に収まってきた。車がゆっくりと走り出す。Uターンして降ろした所へ向かう。すみちゃん。どうか無事でいて。途中、外壁が落ち歩道が塞がれている。道路はヒビが入っている。駅は大丈夫か…降ろした駅の通路は広い。両方の建物も大丈夫。良かった。これならきっと怪我は無い。

あっ君を車に残し、車がみえる範囲を必死に探す。大声で名前を呼ぶが返事が無い。沢山の人が避難して来た。ここにいないならバスプールか？下の階だ。急いで車に戻り駅を迂回する。水道管が破裂して水が溢れ、障害物競争のようにマンホールがあちこち突き出ている。バスプールの端に車を停めバス停を探す。どこにもいない。上の建物から水が溢れ出て滝のようになってきた。車が動かなくなってはヤバイ。仕方ない。あっ君を送ってから捜そう。巡回している警察官を急いで捕まえ特徴を話し、探してもらおうようお願いする。身柄保護と、言ったつもりが、身柄確保と言っている。落ち着け。自分に言い聞かせる。すみちゃん、必ず見付けるからね。断腸の思いで駅を後にする。あっ君の家までいつもなら10分。どうか、混まないで。走り出してすぐ、サッカー場前の新しい橋が隆起している。段差がヤバイ。崩れるなど願いながら、前方の車が渡りきってから行く。信号は全て消えている。反対車線が渋滞してきた。大きなガラス張りの店は悉く割れ、怪我をした人が座り

こみながら電話をしてる。地獄のような光景だ。

家族は無事だろうか…実家の年老いた母は大丈夫だろうか…一年前、脳腫瘍を取ってから歩くのがままならない。実家も妹の家もここの近く。すぐにでも駆けつきたい。でも、こんな状況で駆けつけたら、気丈な母は怒るだろう。母は曲がった事が大嫌いだ。娘は仕事を全うします。母に心で詫びながら車を走らせる。あっ君の家は大丈夫だろうか。いつもの道は崩れていないか…。細い角を曲がるとすぐ、電線がぶら下がっている。避けられない。対向車が通れたから大丈夫。ブレーキを踏まずに進む。なんとも言えない音がする。「あっくん、今ちょっとドキドキだったネ」と、安心させたくて声をかけた。ルームミラーの中のあっ君はいびきをかいて寝ていた。口まで開いている。あっ君は前々から大物だと思っていた。実証された。力が程良くぬけた。あっ君の家は無事だ。誰かいてくれと願いながらチャイムを押す。お母さんが出て来た。あっ君を降ろしながら急いで事情を話す。家の電話の方が通じやすい。コッペへの連絡をお願いする。励まされながら出発。

来る途中、メイン道路の反対車線は渋滞だった。近道を行こう。地元民で本当に良かった。細い近道に行く。対向車が来る。この道が無事なら橋も大丈夫だ。お願い、すみちゃんの所へ渡らせて。子供の頃、みんなと遊んだこの川の上をこんな気持ちで渡るとは思わなかった。渋滞無く進む。駅が見えてきた。もうすぐだ。すみちゃん。今行くからね。そこへ、ラジオの音が飛び込んできた。10メートルの津波がきた…10メートルって!?嘘だろう。何かの間違いだと思いたかった。頭の中に沢山の友人の顔が浮かんで消えていった。そして、地震発生から1時間たったと知る。胸がかきむしられる。

駅の周りは止められないと判断。一番近い紳士服の店の広い駐車場へ停める。店の中はぐちゃぐちゃだ。すみちゃんを降ろした所へ走る。バスプールまでのどこかにいるはず。通路は避難した買い物客で溢れている。救護場が出来ていた。すみちゃんも警察官も見当たらない。バスプールか?走って階段を降りる。水があちこちから溢れている。停電で暗い。

バスが全て回送になっている。まだ乗っていないはず。バス停に人が数人立っている。…いた! すみちゃんはそこにいた。怪我も無い。良かった…息を切らしながら抱きしめた。すみちゃんは言った。「バスに乗り遅れちゃった」「大丈夫。家まで送るから。よく頑張ったね。」「うん、ゾロのバッチが守ってくれたよ。ゆかりさんは大丈夫?」いつもの笑顔に私は泣きそうになった。ゾロはすみちゃんの大好きなアニメのキャラクター。すみちゃんが手術する時に私がプレゼントした缶バッチだ。片時も離さない宝物。役にたって本当に良かった。途中、捜索をお願いしていた警察官に報告とお礼を伝え、駐車場に向かう。店員さんが買い物客を誘導している。寒さ対策にカイロを配っていた。すみちゃんが「もらっていこう」とニコニコしな

がら私の手をひいた。癒やされた。駐車場は探しに来た人達が溢れ、道が混み出してきている。本当は母の無事を確認したい。でも、途中普段でもかなり混む道がある。戦場に母を捨てたような気持ちになりながら車を出す。相変わらず携帯は役に立たない。

走り出してすぐ、ハンドルがとられる位の余震が来る。幸い走行中はあまり気にならない。すみちゃんは自分の事より、コッペの事を心配している。私は「コッペは飯嶋さんがついてるから心配ないよ。大丈夫。」すみちゃんは前々から飯嶋氏に絶大な信頼をよせている。もう一台の配達の人のも心配している「大丈夫。運転手は最近免許とったから。非常事態の対応方法を授業で習ったばかりだよ。それにあの時間ならきっとコッペに帰ってるよ。」ちなみに、その初心者マークがとれたばかりの運転手は私の娘②だ。私より運転が上手い。きっと大丈夫。悪い事は全て打ち消す。すみちゃんと女子会のような会話をしながらバイパスを北上。今年一番の雪が降り出した。前が見えない。一面雪景色。何もこんな時に降らなくても…すみちゃんの家に混まずに到着。家は無事だ。ドアの鍵が開いている。家の中は何もかもひっくり返っている。誰か家具の下敷きになってないか心配で大声で呼ぶ。返事が無い。留守か？近くの弟さんの家に探しに行くが誰もいない。近所の人に避難所を聞き行ってみる。避難所は最近文化祭があり納品に行っていて、すぐわかった。すみちゃんと親しいご婦人がいらした。すみちゃんが、やっと安心した顔をした。

すみちゃんのお父さんと、囲碁サークル中、一緒に地震にあったそうだ。「すみちゃん、お父さんはお孫さんを迎えに小学校に行ったから、帰るまでここにいなさい」と、優しく声を掛けてくださった。すみちゃんの希望も聞き、お願いする事にする。自宅と弟さん宅に、すみちゃんが避難所に近所の方と一緒にいる事、ご婦人の御名前を手紙で残した。念の為、外にいた近所の方にも声をかけた。無事会える事を願いながら。

よし、帰るぞ。すみちゃんの家を迂回。近くの林から大きな岩が崩れ落ち、道を半分ふさいでいた。鳥肌がたつ。ここからの近道がわからない。安全かもわからない。やむをえず渋滞しているバイパスに行く事にする。途中わかる道に入ってから抜けよう。バイパスは大渋滞。携帯も相変わらずつながらない。ラジオからは耳をおおいたくなるような大惨事が流れてくる。前々から宮城県沖地震が来る事は覚悟していた。でも、予想をはるかに上回っていた。しかも、津波なんて…又大きな余震が来る。隣のコンテナ車がブルブルと揺れている。倒れて来たらさよならだな…

また雪が降り出した。体が冷えて来た。段ボールを足元に敷き新聞紙を足に巻いた。すみちゃんともらったカイロが役にたつ。エンジンは進む時だけかける。ガソリンは2/3あるがこの渋滞では油断出来ない。超寒い。ダウンジャケットを着ていて良かった。突然携帯がなる。娘①だ。コッペのみんなと家族の無事を知らせて

くれる。母も妹達も無事だ。良かった。やっと安心した。お花畑が一気に広がりその空を飛んでいるような気持ちになる。私達の無事をコッペに電話するよう頼む。辺りが暗くなってきた。こんな話しもなんだが…トイレに行きたい。恐怖心と尿意との戦いだ。まわりのドライバーは車から降りて影ですませている。男はいいな…神様私を男にして下さい。無理ならせめて、携帯チン〇〇をお与え下さい。なんならドラえもんでも良いです。神様から「ほかの事願えよバーカ」と言われそうなのでキャンセルする。仏の顔も三度までと言うが、神様はいっぱいいる。願い事は未知数。楽観主義が炸裂している。現実逃避は良い薬だ。

そう言えば携帯トイレが車にあった。チャレンジしてみっか！封を開けてみる。粉が飛びちった。説明書の字が小さい。最近老眼がかなり進んだ…仕方なく断念。大きな余震が何度となく来る中、一人で笑いをこらえる。ナチュラルハイになってきた。やっと知っている道へ近づいてきた。混んでない交差点をゆっくり曲がる。良かった。すいている。走り出したとたん地震警報がラジオから流れる。車を路肩に止める。かなり強い揺れだ。終わるのを待つ。この近くに、今日配達予定だったお宅が何件かある。届けたい…パンがあればきっと喜ばれるだろう。揺れをこらえながら考える。突然の電柱が倒れてきた。ヤバイ。電線が切れ車に落ちて来た。慌ててその場を回避。危機一髪だ。まわりは電柱がドミノのように倒れている。今日電線がぶつかるのは二回目だがこの音は慣れそうも無い。地震なのか震えなのかわからなくなってきた。あやとりのような電線を抜けながら暗い道を進んだ。悔しいが、お客様に配達する事をあきらめる。ちょっと前の私だったら、きっと命はつても届けに行くだろう。今回は良い格好は出来ない。心で詫びながら、配達先手前を曲がる。また地震警報がなる。怖いが止まらず進む。余震がハンパない。嬉しい事に尿意はどこかに行ってしまった。

さっきの近道を行こう。来た時通れたなら大丈夫かも。対向車も来る。再び尿意に襲われる。いよいよヤバイ。妹の所へようろう。妹達と膀胱が心配だ。古いアパートは無事。ダッシュでトイレを借りる。私の膀胱も無事だ。姪達と話す「あの地震でも死なないんだから私達も婆ちゃんもきっと元気に長生きするよ」みんな無事で本当に良かった。車を走らせてすぐ、車がゆっくりスピンする。暗くてわからなかったが水道管が破裂したのか道が凍っていた。雪で解らなかった。新しく開通した道に出る。段差が至る所ありゆっくり走る。コッペに近づくにしたいが、いやな臭いがしてきた。ガス局の周りは特に酷い。ガスか…30年前の宮城県沖地震を思い出す。ガス局爆発して炎上したな…鳥肌がたつ。早く立ち去りたい。コッペが見えてきた。8時半を回っている。地震発生から6時間…佐々木さん張さんと根津君が待っていてくれた。すみちゃんの両親から連絡があったと聞き安心する。コッペは全員怪我も無く無事帰宅。建物の壁にひびが入っているが無事。飯嶋氏は全員を帰

した後帰宅した。大家族の飯嶋家は大丈夫だろうか。明日は家の片付け。明後日集まってあらためて今後の予定を決めるそうだ。

不思議とコッペの今後には不安は無かった。飯嶋氏に絶大な信頼があるのはすみちゃんだけではない。張さん佐々木さんは自宅がヤバいのでコッペに避難。車を持たない私は、配達のを念のためそのまま借りる。パンと、仕入れていたレトルトカレー等を救援物資でもらった。しばらくは安心だ。マンションは真っ暗。沢山の住人が車に避難していた。近くに自衛隊がある。ヘリコプターがひっきりなしに飛びかっている。コッペスタッフの入江さん宅に娘①②がお世話になっていた。同じマンションにコッペスタッフが4人住んでいる。心強い。みんな片寄せ合い毛布にくるまっていた。懐中電灯に照らされた、みんなの顔を見たらホッとした。私は3年前に離婚している。子供は全員私と暮らしている。息子は東京にライブを観に行き帰れない。いつもデカイ地震にあわないジंकスを持っている。前まで住んでいた家は海から5キロ離れている。津波で流された。元旦那は仕事に行っていて難を逃れた。アルバム持って来れば良かった。子供達は家やアルバムが無くなった事より、家族が全員無事である事の方が大事だと言っている。私は離婚して良かったと思った。入江さんの旦那さんが、ランプ型の懐中電灯を貸してくれた。とりあえず娘達を連れて家の中を見に行く。足の踏み場も無い。めちゃくちゃだ。寒い。ぐちゃぐちゃの部屋からコートを探し何枚も着込み家中のダンボールと布団類を引っ張り出し車に運ぶ。今夜は車中泊にしよう。昔キャンプの番組で車中泊の仕方を見た。コッペ号は軽のワゴン車。後ろの座席を倒し寝れるようにする。ダンボールを隙間無く敷き詰める。その上にありったけの布団を敷き詰める。足元に靴を置きいつでも逃げられるようにする。前の席の足元にも新聞紙などを敷き詰め、荷物を押し込んだ。運転席はすぐ運転出来るようにする。珍しく食欲も無い。どうせ余震で寝れないだろうな。早々に3人で布団に入る。痩せてる娘①を真ん中に川の字になる。娘①は「二人がデブで良かったと始めて思った」と笑っている。

車の中は地割れしない限りとりあえず安心だ。本当はコッペに避難すれば良いのだが娘①は人見知りが激しい。避難所は絶対無理だ。今後のダメージを考えると車中泊がベスト。駐車場は車中泊仲間が沢山いる。かなり冷え込んできた。だが私達は暖房など無くても平気だ。前住んでいた家は本当に寒かった。抱いて寝た子供の前髪が私の寝息で凍る事もあった。貧乏万歳。強靱な私達に育ててくれてありがとう。

夜空はいつもより星が出ている。ヘリコプターが遠くで沢山飛んでいる。昔住んでいた家はあのあたりだ。地震発生時から、救急車と消防車がひっきりなしだ。

携帯は役に立たない。連絡がとれない事が、こんなに不安なものか…。かなり大きな余震が繰り返す。寝るよう努力する。娘達と、余震のたび、車の上でサーフィ

ン出来るね、と不謹慎ながら笑う。ここまで揺れたら、もう笑うしかない。ハワイ並みのビッグウェーブを乗り越えながら、現実逃避の逃避行は急降下を繰り返しながら夜明けを待つ。

コッペのみんなは無事この時間をやり過ごしているだろうか。みんな毎日仕事を楽しみにしている。楽しみと言うより生活の一部。できるだけ早く再開したい。今日もヨッチャンは地震発生後も、ホイロの掃除など完璧にこなしてから帰ったそうだ。命からがら配達から帰った娘はホイロ掃除をするヨッチャンを見て癒やされたと言っている。沢山の物が落下しても、壁にひびが入っても、強い余震が来てもヨッチャンは働く。これから始まる生活になれるだろうか？綺麗好きな、ななえちゃんの水が出ないと困るだろう。頑張りやの祝子さんや親方は頑張り過ぎて体壊さなきゃいいが…。アレルギーのあるてっちゃんは食べる物があるだろうか。心配は尽きない。何より、みんなは避難所に行けるだろうか…

でも、救いもある。飯嶋氏は今回も又、色々な所でいつものように大活躍するのだろう。そして今回の事をテーマに講演会で発表する事となる。きっとみんなも勉強になり今後の役に立つに違いない。過酷な経験はバネのような物だと私は思う。私も負けずに頑張らねば。

決意は緩やかな眠りを誘う。

そして夜明けと共に厳しい現実がやって来る。

続く

お知らせ

☆ 社団法人 仙台建設業協会 様より

5万円のご寄付もいただきました。

ありがとうございました。

☆ イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン 様より

ご寄贈 いただきました。ありがとうございました。

☆ 会報「麦の穂」の発行が遅れましたことを

おわび申し上げます。おいしいパンとクッキーも

お届けできるように がんばりますので

これからも "コッペ" を よろしくお願ひいたします。